

第7回BOX展

開催日:2024年6月8-14日
会場:建築会館1階ギャラリー(東京・港区)

展覧会委員会

BOX展は、30cm×30cm×30cmの立方空間を自由に使用した作品の公募展です。第7回となる今回は、6月8日(土)から14日(金)まで、建築会館1階ギャラリーにて開催。陶土、大理石、ブロンズ、ステンレス、ガラス、布、スチレンボードやペットボトルなど多彩な材料を使った44点(会員22点、一般19点、学生3点)ものご応募をいただきました。

今回は初の試みとして、開催初日のレセプションパーティーの前にギャラリートークを実施。出品者の皆様から自作についての簡単ご紹介いただきと共に作品への思いも語っていただき、参加者の皆様からも好評をいただきました。引き続き開催されたレセプションも盛り上がり、何よりも参加いただいた方々の交流の輪が広がりました。最終日には表彰式を実施。受賞者と参加された方々との交流の時間も設け、和やかな表彰式となりました。

審査委員

◎審査委員長

米林雄一(東京藝術大学名誉教授、彫刻家)

◎審査員(五十音順)

岡本直枝(テキスタイル造形作家)

齊木慶一(株式会社スペース・メニュー・

ラボ代表取締役)

長尾俊夫(株式会社剣持デザイン研究所所長)

中野恵美子(織造形作家)

横山徹(青山学院大学名誉教授、彫刻家)

受賞者(敬称略)

◎最優秀賞

高須好子(会員) 「塊(かたまり)」

◎優秀賞

熊木真由美(会員) 「作品」

小割哲也(一般) 「跡方体」

◎特別賞

横澤有生(学生) 「無題」

◎佳作

阿部剛士(会員) 「1945・春～秋」

上村伴子(会員) 「青に漂う」

齋藤卯乃(会員) 「未来への兆し」

寺本沙香江(一般) 「不思議な命」

中島敦子(一般) 「ごんごん」

◎オーディエンス賞

金原京子(会員) 「無題」

最優秀賞を受賞された高須様の「塊」は、50cm×70cmと40cm×45cmの2枚の布を巧みに美しい塊につくりあげた作品で、審査では高い評価を得ました。優秀賞を受賞された熊木様の「作品」も布、糸を使っており、「染めた布を使った遊び」をテーマにしたものでした。同じく優秀賞の小割様の「跡方体」は、「建築の構造体をモチーフに、その朽ちていく様で時間を表現」した陶器の作品で来館者(オーディエンス)からも多くの票を得ていました。来館者の投票によるオーディエンス賞を受賞された金原様の作品は、「ペットボトルをハサミで4mm幅の紐状に切り、それらを棒に巻きつけ熱を加えてラセンにした」もの。来館者から「ペットボトルとは思えない」「どうやって作るのだろう」といった感想が多く、支持を得ていました。

ご協賛いただきました大成建設株式会社、株式会社エフワンエヌ、株式会社アトリエトラベル、株式会社クサカベ、株式会社名村大成堂、株式会社文房堂、クラフトー2、光ステンド工房様には厚く御礼申し上げますと共に、株式会社フュー様をはじめ運営にご協力、ご支援いただきました皆様に感謝申し上げます。

なお、来年の第8回BOX展は6月8日(日)から14日(土)を予定しています。多くのご応募をお待ちしております。

(委員長 飯田郷介)



高須好子「塊(かたまり)」



熊木真由美「作品」



小割哲也「跡方体」

撮影:小林正